

後編

～自己改革への挑戦～

11月号に掲載しました西之表支所青壮年部「最高の組織活動を求めて」の続きを紹介します。

今思えば、我々はポリシーブックが表に出る前から、政策提言を行っていました。もうひとつの活動である、「西之表市長と語る会」と「農協組合長と語る会」です。これらは2年に1度交互に行っている活動行事です。昨年は9月に市長と語る会が行われました。7月から西之表を北と南に分けて各盟友間で話し合い、8月に北と南の盟友間で話し合った事を持ち寄って審議し、質問事項を決定し当日を迎えました。青壮年部からは今後の種子島のブランドについて、新規就農者や後継者の問題、鳥獣対策、離島ならではの海上運賃問題、循環型農業について市長と白熱した討論を行いました。予算等の関係上、全ての事項に対して我々の希望通りにならないかもしれないが、前向きに検討するという答えでした。

初当選した市長が農業をどのように考えているのか直接聞き、農業に対して理解のある市長であった事に盟友間にも安堵の表情が見られました。また、盟友が日頃から思っている事を直接聞けた事に市長も大変喜んでおられました。さらに嬉しかったのは、我々の質問以外で盟友が、地元の農家が不安に思っている聞いてきたものが反映され改善された事です。これから始まる安納いものシーズンにおいて集荷センターに芋を運ぶ際、道路際の雑草が生い茂っている為、通行の妨げになり対向車と離合する際に危険を感じるので草刈りをして欲しいというものでした。後日その道を通るとしつかりと道沿いの草は刈られており、不安を口にしていた農家さんも満足していた事です。これまでは各地区の大規模農家の意見が主に農政に反映されていましたが、盟友が増えた事により各地区、集落の中小の農家の声が多く聞ける様になったのは大きいと思います。我々が地域に根差している証拠であり、今後も行政や農協と立場の弱い農家との架け橋になる様に努力していかねばならないと思います。

無理してたくさん計画を立て盟友が参加できない活動をするよりも、無理なく確実に行える活動に重点を置くようにした結果、実質的な活動としてレクリエーション大会、毎年行われるJA祭りの出店、2年に1度の島外研修、島外研修に行かない年は2年に1回の割合で「西之表市長と語る会」もしくは「組合長、農協幹部と語る会」を行う活動に絞りました。しかしながら、これで満足する盟友達ではありません。もっと活動できる盟友には、個人で活動してもらおう事にしました。青壮年部全員の活動となると、なかなか日程の調整から先に進みません。なので、個人の活動を支援するような形で盟友の参加を促す方法を取りました。盟友からは、他の盟友がたくさん来ると緊張して逆に活動が出来ないとか、自分の都合のよい時間に参加できるので非常に良いという声が聞かれました。ある盟友は和牛の出産時に小学生を呼んで命の教育します。またある盟友は、安納いもについて出前授業から芋植え、収穫まで教育をします。その他にも、田植えやサトウキビの収穫と黒糖作りの体験等、食育をメインに活動しています。また昨年は、西之表市役所からの協力依頼で、婚活の芋掘り体験を行うようになり、どんどん活動の範囲を広げつつあります。